

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2874001080		
法人名	社会福祉法人 本覚寺苑		
事業所名	グループホーム みろくの里		
所在地	兵庫県姫路市花田町加納原田145-7 (電話) 079-253-8169		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 5月16日	評価確定日	平成19年 6月14日

【情報提供票より】(平成19年 4月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 2人, 非常勤 8人,	常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000・20,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780 円 ・ 1ヶ月(23,000)円			

(4) 利用者の概要(4月 25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本覚寺診療所、有方歯科
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家と田畑の中に位置し、のどかな雰囲気地域の地域に溶け込んでいる。四季の移り変わりを肌で感じ取れる田園がホーム前に広がり、五感への働きかけの一助となっている。又、同敷地内には保育園があり、園児の歓声が聞こえる環境でもある。事業主体の母体施設である山彦ホームや協力医療機関である本覚寺診療所がすぐ側に位置し、利用者・家族の大きな安心感となっている。リハビリの一環となっている回想法やプレイ・アンド・トレーニングも生活の一部として定着している。当日は地域住民がボランティアとして来所しておられ、菜園づくりを手伝ってくれていた。菜園で採れた新鮮ないちごが食卓のり、利用者の明るい話題ともなっていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の自己評価及び第三者評価の改善課題において、数点、取り組みが行われていたが、もう一歩踏み込んだ改善が必要である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者と職員は協働して自己評価を実施しているが、具体的な改善への取り組みが今後の課題である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	4月に第一回の運営推進会議が行われていた。討議内容は、第一回目につきグループホームの説明と家族の感謝の言葉であった。内容の説明は職員に行われているが、活かした取り組みに発展することが今後の課題である。次回の運営推進会議では、自己評価と外部評価の内容の話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族への情報提供は訪問時にほぼ行われている。意見箱を設置しているものの過去一度も意見が投函されていない。家族はホームや職員の対応にほぼ好意的にあるものの、直接には遠慮があることも考慮し、家族会の復活を期待したい。家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みづくりと、その内容を運営推進会議で討議し改善につなげていってもらいたい。みろくだより等に掲載すること等取り組み内容として上がっているため、今後を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域住民の一員として、自治会に加入し地域の行事に積極的に参加し、地域に溶け込む努力がされている。地区の中学生のトライやるウィークを受け入れたり、地域住民のボランティアにも足しげく訪問してもらっている。菜園や園芸の世話から調理の手伝いと力強い支援者となっている。ホームでの孤立を防ぐ良き環境となっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いのち一番、にこにこ二番、質の介護にプロ意識」の従来の理念に「仲良く地域と支えあい」を付け加え、地域との連携を図ることとした理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を苑内に掲示すると共に、朝礼・申し送り時に、職員全員で唱和し、日々のサービスの提供場面において、生かすようにされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会、自治会に加入し、地域と交流を図るようにしている。秋祭りや盆踊り等に招待され参加している。又、二校の中学校のトライやるウィークやボランティアを積極的に受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に説明し、皆で自己評価に取り組んでいる。		評価で見い出された課題を抽出し、サービスの質の向上と改善につなげられることを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	4月の運営推進会議では、事業所からグループホームの現状について報告が行われ、ご家族から意見をお聞きしている。		運営推進会議のメンバーから率直な意見を引き出し、改善にむけた具体的な取り組みを期待したい。又、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても説明し、意見をもらうことを期待したい。
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの連絡会への参加が行われている。又、グループホームの意見交換会に参加し、運営やサービスの向上の参考にしている。		地域密着型サービスの創設を機に、市町村担当者に事業所の考え方や、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、市町村との連携強化を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	オムツ類の持込をお願いすることにより、随時の訪問がされている。その際、暮らしぶりや健康状態が報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がされている。又、訪問時に意見を表せるよう留意している。		運営推進会議でご家族の意見や苦情を取り上げ、運営に反映させてほしい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的にケアを行うことを基本としており、ここ数年、異動が行われていない。異動がある際は、利用者へのダメージを防ぐ配慮を行う準備もある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	母体である山彦ホームでの施設内研修に参加している。又、他のグループホームの見学を行い技術や知識を身につける取り組みがされている。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他グループホームとの意見交換会に参加し、情報交換を行うことにより、サービスの質の向上を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人が安心して生活ができるよう、家族に協力を求めている。電話で話すことや面会の頻度を増やす等により、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の得意とする生活の技を教えてもらうことが多いため、お互いが協働しながら生活する雰囲気となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思疎通が困難な方には、ご家族からの情報を得るようにし、本人にとってどのように暮らすことが最良なのか検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の出来ることに注目し、家族の意見を踏まえた介護計画を作成している。当然のことながら実施可能なことを短期目標としている。</p>		<p>新たに、KOMI記録システムのチャートに個々の状態を落とし込む作業から、職員全員で関わっていくとの意欲的な思いがあるため、是非実現し、一層の利用者本位の介護計画となることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>全職員が遂行状況をチェックし、随時の見直しを行うと共に、月1回のケアカンファレンスで検討している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に家族に連絡することにより、かかりつけ医の受診をおこなってもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去においてターミナルケアを行った経緯はあるが、現在は希望される利用者がいない。		終末に対する対応指針を定め、家族・医療機関・職員で話し合い、事例発生時に備えてもらいたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事場面でも利用者の誇りを損なわない言葉かけができていた。又、個人情報保護法の理解と秘密保持に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの思いに添った支援をできる限りおこなっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の当番表にそって、職員と一緒に盛り付けしたりし、職員と利用者が同じテーブルを囲んでの食事風景であった。当日は菜園で採りたいちごが食卓にでたこともあり、話が盛り上がっていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を入浴日を決めて行われていたが、夜間入浴の希望を聞いたりし、夏季にはシャワー浴での対応が行う体制がある。入所前には入浴拒否傾向の利用者の対応もスムーズに行えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・洗濯物干し・花の水やり・掃除等得意分野で力を発揮してもらえよう、日常の仕事に頼んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、買い物・散歩・外食・喫茶店に出かける支援が行われていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と勝手口には鍵がかかっていなく、自由に出入り出来るようになっている。センサーの設置と、さりげない散歩の付き添いをする事により、安全性に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	火災対策として、全室スプリンクラーを完備しており、対応マニュアルや消防訓練を行うことにより全職員が理解している。消防署の協力のもと、地域住民と共に避難訓練や消火器の使い方の訓練が行われていた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	ケアチェック表に主食、副食の摂取量を記入し、職員が情報を共有している。医師の指示がある利用者については水分摂取量のチェックが行われている。水分摂取はこまめに勧められている。		一人ひとりにあった栄養摂取や水分補給となるよう飲水量のチェックを行っておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	食卓・居間からは田んぼが見え、移り変わる季節感のある生活となっている。又、玄関・廊下・居間・台所・食堂等の共用の空間は木材での柱や梁となっており、落ち着いた居心地よい空間となっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ベッドとタンス以外は本人の私用物が持ち込まれた生活となっている。それぞれの生活スタイルに合わせられた工夫の配慮がされている。		

は、重点項目。